

った。

施設の拡充や経営安定のため増資を行い、資本金は5千260万円に増額され、村の出資総額は2千700万円となり全体の51%を占める。現在は、12の株主により会社が構成されている。

ギター製造工場は、西興部村にとって高校卒業後の若者の就職先として若者流出の歯止め効果として期待も大きく、Uターンや若者の雇用の場として過疎化防止の一役を担う就労の場である。

国内景気に翻弄され、赤字続きの厳しい経営であったが、長年培った塗装技術を基盤に黒字転換へと順調な業績を上げるようになった。

○出資状況・運営体制

村の出資金は2千695万円、出資率は51%である。

会社の決算状況は、前年度は売上が3億3千万円で利益が1千万円程となっており、収益があり

赤字はない。

従業員は39名で、妻帯者・独身者等の住宅も整備している。

若い人の働ける環境づくりに取り組み、若い技術者を育て大事にしている。

会社のコンセプトは、

「見るだけではなく触れて楽しむこと」である。

村からの持ち出しは、出資金だけである。



○村として

今までに国・道の補助金、起債、一般財源で3億6千700万円の支援をしている。

村としては大きな産業の一つであり、製造され

たギター・ウクレレは、「ふるさと納税」の返礼品として活用し、村の特産品として位置付けされている。

また、若者の定住促進にも繋がっている。

◆委員会所感

三セクへの補助金の増額等については、この施設が村民にとって必要な施設であると判断し、住民の理解が得られているので、村としても補助金を支出していると考え、公社が指定管理を受けている施設が1カ所だけではなく、数カ所管理運営をしており、全体の施設の収入により公社の運営がなされていると感じた。

人口1千人位のまちでの取り組みについては厳しい面もあるが、住民の理解と行政・地域が一体となった取り組みをしており、「少ないながらも」明らかにある。地域産業の活性化のため、行政の果たす役割が見え、地域振興が図られていると感じた。

公共施設の外壁の色が統一されており、一目で公共施設だとわかり、いいアイデアだと感じた。公社への補助等は、住民の理解が不可欠であり、行政としても十分に考慮して進めるべきと感じた。

じた。

ホテル森夢のレストランで昼食を取らせていただいたが、平日にも関わらず数多くの客が食事をしており、鹿肉を使うなどメニューにも工夫があり、営業努力が伺われる。

ギター工場は、地域の木材業の振興のための取り組みで、産業の活性化とそこで働く従業員の定住促進にも繋がっている。

また、出来上がった製品が「ふるさと納税」の返礼品として全国に送られ、地元の特産品としての位置付けがされている。

町の関係する産業との結び付けにより、色々の施設づくりを展開しており、住民の理解と行政の指導がうまくマッチしていると感じた。

公共施設の外壁の色が統一されており、一目で公共施設だとわかり、いいアイデアだと感じた。公社への補助等は、住民の理解が不可欠であり、行政としても十分に考慮して進めるべきと感じた。



■空き家対策  
上川郡下川町

下川町は、町の90%が森林に囲まれ、恵まれた森林資源と豊かで美しい自然が残された町です。現在、サンルダムの建設が進められている。

昭和58年には、鉾山の休山などが相次ぎ、昭和63年には営林署の統廃合、平成元年にはJR名寄本線が廃止されるなど、町の主産業が衰退、人口が著しく減少し過疎化が進み空き家も増加した。

○下川町における空き家対策事業

平成23年度に町内の空き家数の調査を実施し、「空き家活用促進協議会」を設立。A～Eまでのリンク付けをして、情報提供に有効なシステムを構築した。

価格のシミュレーションにより、売り手・買い手が見合う流通体制を構築し、金融機関との連携により購入費等の面で融資等を行う。

平成28年度に国土交通省の「先駆的空き家対策モデル事業」の指定を受け、事業の概要等についてまとめ、事業を進める上で下川オリジナルのスタンダードを作った。

構成メンバーは、行政・法務・金融・建設業者・商工会関係・有識者・不動産関係・事業主体（振興公社）・外部コンサル等で構成し、空き家にさせない取り組みや情報提供の事業化に向けて連携している。

第三者（建築業者等）